

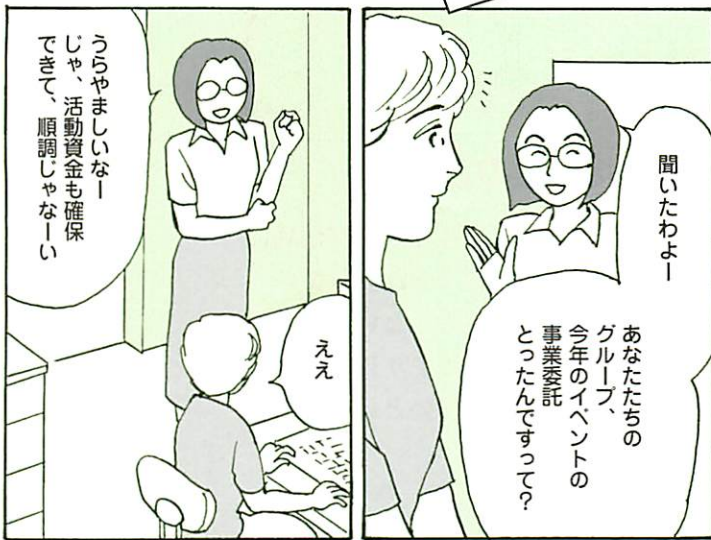
あうみネット

あうみネット

Communication Paper for Voluntary Network in Ohmi

人と人をつなぐ♥ 作 杉尾尚子
ネットストーリー

運営資金 編



シリーズ～NPOへの素朴な疑問～〈第1回〉
「市民」っていったい誰のこと!!

市民&企業&行政ネット
め・と・て・とねっと

財団法人びわぎん緑と水の基金
「近畿の水がめ琵琶湖を守り」「森を育む」
住民活動をサポート。

あうみネット リレーエッセイ

トピックス

NPOを運営するための 「お金」

スポットライト

私たちががんばってます!NPO

- てまりの会
- 特定非営利活動法人「しみんふくしの家八日市」
- 近江町オオムラサキを守る会

伝言板 5月・6月

センターインフォメーション

2001年度
年間スケジュール

May
No. **23**
2001・5

淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

シリーズ～NPOへの素朴な疑問～

NPOって ナニ？

第1回 「市民」っていったい誰のこと！！

最近、市民活動という言葉も一般的に使われるようになり、市民活動に関わる者にとっては喜ばしい限りだ。でも、市民活動の「市民」っていったい誰のことだろう。市民活動に関わる者の間では「市民」という言葉についての議論はあまりない。「市民」という言葉がすでにすり込みされているのか、あるいは、いまさら「市民」って何だと聞けないという日本人らしい奥ゆかしさがあるのかは知らないが。

「市民」とはそもそも何なのか。日本で使うのは、大津市、草津市など、「市」に住んでいる「住民」のことを言う場合が多い。しかし、市民活動、市民社会などと使う場合の「市民」は、これとちょっと違った意味になる。一般的には、広く所属や立場を離れて個人としての自由意思で発言し行動する人々であると言われる。ちょっと難しい言い方になったが、市民活動をしている方なら、まさに自分のことだと納得する人も多いのでは。今田忠さん（市民社会研究所）によると、もう一歩踏み込んで、政治的社会的権利義務を持った「人民」が「市民」であると言う。アメリカ合衆国憲法やフランス人権宣言には、しっかり「市民」としての権利と義務が唱われているらしい。

それでは、日本に「市民」は存在するのだろうか？ 権利義務を持つということは、なんかやっかいさを背負い込む感じがする。「市民」というからには、「市民」として市民社会を築き上げるための日本社会を変革していく心構えと覚悟が必要なようだ。ここまで書くと、引いてしまう人もいるかもしれないが。

市民活動家にとって、佐伯啓思さんの「市民とは誰か」（PHP新書、1997年）を読んでみて、自分の立場を振り返ってみるのもいいかもしれない。（市民熟人）

参考文献 NPO研究の課題と展望2000（塩澤修平／山内直人編、日本評論社、2000年）

めとてとねっと

市民&企業&行政ねっと

「近畿の水がめ琵琶湖を守り」
「森を育む」住民活動をサポート。

財団法人 びわぎん緑と水の基金

緑と水に囲まれた滋賀県の豊かな環境を守り、よりよい環境を未来に繋ぐと平成4年、びわこ銀行は創立50周年を記念して、『財団法人びわぎん緑と水の基金』を設立。自治会の緑化活動、ヨシ刈りなどの水環境保全活動や小中学生の環境学習活動に対し、一件あたり上限30万円（総額の4分の3以内）の助成事業を行っています。びわこ水源の森林づくり事業や空き缶回収をした子ども達に苗木を植えてもらう環境学習など、昨年度までの助成実績は緑化事業176件、水環境保全88件、自主事業9件の合計273件で助成総額は7千4百万円にのぼりました。



事務局長の徳永博史さん

そもそも、『環境こだわり銀行』としての社会貢献活動の始まりは昭和48年に遡ります。昭和50年には『緑の森づくり運動』を提唱。毎年、春と秋に苗木を学校や福祉施設、市町村に寄贈し今年で26年目を迎えます。これまでに贈った苗木はなんと10万5千本も……。一方で、社内から森林ボランティアを募り、各地で実施される森林保全活動に積極的に参加、毎年多くの森林ボランティアが活躍しています。「実際に山に入って下草刈りをし、苗木を植えてかく汗は大変に気持ちが良いものです。苗木の成長が楽しみと、何度も参加してくれる行員もいるほどです。」自らも森林ボランティアが楽しみと語る事務局長の徳永さん。行員のボランティア活動を支援するために、びわぎんボランティア活動支援委員会を設置し、特別休暇を付与したり、ボランティア活動の情報を提供しています。



竜王のサクラを植えよう会の事業助成。



びわぎん社員も参加した別所国有林の記念植樹。

「環境にやさしい企業」をキーワードに今年1月には第二地方銀行としては初のISO14001の認証を取得。環境こだわり銀行として自然との共生、地域との共生を目指して21世紀の滋賀の環境保全活動をサポートします。

財団法人びわぎん緑と水の基金

TEL.077-521-1804 FAX.077-522-2003 <http://www.biwakobank.co.jp/>

水にこだわりつづけて

心をむすんで*
リレーエッセイ

今、ミミズを育てている。生ゴミリサイクルを仕事と趣味の両方でやっている。仲間3人で「みみずクラブ」を設立したので、ミミズへの理解を深めてもらえるような絵本も企画中だ。次は、心も水も滴るようなイイ男、林田久充さんよろしく。

こだわっているつもりはなかったが、結果として、僕の活動はいつも「水」に関係している。若い連中とベトポトルでボートを作り、琵琶湖を縦漕したこともあるし、町内のおっちゃんたちで手作りヨットに挑んだこともある。阪神大震災では「一滴」と名乗って活動していた。86年に始めた自治体の政策研究会は、「山水会」と言い、水辺環境の開放が最初のテーマであった。この「山水会」は第三水曜日勉強会をしていたことに由来するので本当は「三水会」だ。仮名で書くと、ミミズ。かなりのこじつけだが、



震災ボランティア一滴 寺田智次

次回は
林田久充さんです。

NPOを運営するための「お金」

NPO(とくに市民団体)が継続的な事業を行っていく上での運営資源(人・もの・金・情報)は、企業と同じくNPOの明日を左右する重要課題ですが、非営利組織のマネジメントは、まだまだという状況です。

今回は、こうしたNPOのマネジメントの中でも特に関心の高い「お金」を特集します。NPOは収益性があまり高くなく、ややもすればすべて持ち出しというのが実情です。それを補う多面的な資金づくりは、NPO運営に欠かせないものです。

NPOの資金として一般的には、会費収入、補助金・助成金収入、委託金収入、事業収入、寄付金収入などがありますが、それぞれに長短所もあります。

それでは、県内のNPOをとりまく資金の動きを見ながら、NPOにとつての「お金」とは何なのかを考えてみたいと思います。

会費

滋賀県内には、12の青年会議所があります。

各会議所は、それぞれ社団法人格を持ち、個人会員の会費を主な財源として運営されています。各会議所を構成メンバーとする滋賀ブロック協議会自体も、各会議所から拠出される会費を主財源に運営されています。

会費中心のため、毎年、安定的に資金が確保される反面、会員確保が団体運営の根幹に関わっています。

会員といっても、一緒に活動する人、会を支えてくれる人、サービスの受け手というようにいろいろな意味合いがあり、当然、会費も同じように多くの性格を持っています。

補助金

県では、2001年度からふれあいデイサービス施設の整備やふれあいグループホーム

の整備のための補助制度を創設しました。NPO法人等が空き家や空き店舗の既存施設を改修して、グループホームやデイサービス事業を実施しようとする場合の施設改修、初年度設備のうち、その2分の1を県、4分の1を市町村が助成するものです。例えば、ふれあいデイサービス施設の場合、補助基準額が800万円なので、最大600万円の補助金を受けることができますが、そのためにはNPOが200万円の自己資金を用意する必要があります。

助成金

蒲生野考現倶楽部は、1991年にトヨタ

財団から市民研究コンクール助成を受け、蒲生野における身近な水と生活文化の調査研究を実施しました。そこでは、水環境の自然・社会・文化的な意味を探り、水辺の遊びや生活の復元を試みながら、水環境の再生が模索されてきました。こうした一連の活動の成果をとりまとめるため、97年には再びトヨタ財団から市民活動助成を受けました。

助成財団の助成金は助成の趣旨や目的を理解して申請することが大切です。



委 託

2000年8月にNPO法人化されたチームスホール協会は、クラシック音楽を中心とする芸術家の育成や芸術文化の活性化のための事業を行っています。昨年、県文化振興課（現県民文化課）から「湖国新世紀記念曲制作事業」を委託されました。委託内容は、記念曲の作曲と湖国21世紀記念事業オープニングの公演です。

委託は、人件費や事務費を経費に含めることが多いので、NPOから大きな期待がありません。しかし、成果物が発注者側に帰属するとか、事業完了後しかお金が入らないケースも多いので、つなぎ資金をどうするかという問題も抱えています。

事業収入

しみんふくし滋賀は、1999年4月にNPO法人化されましたが、ホームヘルプサービス事業、保育事業、給食事業など、事業収入が5分の4以上を占めています。もともと、生協を設立しようという動きの中で、会員向けのサービスを行っていましたが、NPO法人化し、介護保険指定居宅サービス事業者として介護保険に参入しています。

事業収入は、NPOにとって活動の継続性という意味からも重要で、収益のあがる事業の企画力、言い換えればベンチャー性が求められています。

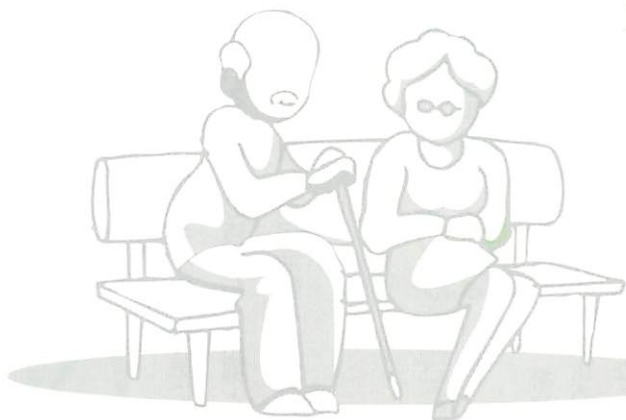
寄付金

近畿ろうきんでは、NPO・市民活動と広範な市民・勤労者をつなぐ新しい参加の形として「NPO寄付システム」を開発しました。紹介NPOリストの中から応援したいNPOを選び、自分の口座を使って毎月100円からの口座振替という気軽に寄付できる仕組みに設計されています。

寄付金に対しての優遇を与えるNPO支援税制が、この10月から実施されます。しかし、認定要件に該当するNPO法人は少ないのではないかと言われており、NPO側からは批判が出ています。NPOを支える、発展させるという意味から、NPOに対する支援税制の仕組みを考えていく必要があります。（税制問題は改めて特集したいと考えています。）

NPOはミッション（使命、目的）志向の団体だと言われます。「金」に走りすぎると、組織本来の使命を失う恐れもあります。しかし、運営していく上での経費はどうしても必要です。補助金には人件費や管理費を対象にならないものが多いし、委託ばかりだと何のための活動かということにもなります。「なんのために活動をしているのか」という活動の原点に立ち帰り、自分の団体にあった資金のあり方を自ら考えていく必要があると思います。

この機会に一度、自分の団体の資金のことを考えてみませんか？



私たちががんばっています！

NPO

どういふふうにしたら、もっとみんながイキイキと元気に暮らせるか——そんな素敵な夢を現実のものにするために、日夜奮闘しているNPOの皆さん。環境・福祉・子ども・まちづくりe.t.c. . . . 滋賀県に新しい風をおくるフレッシュな市民活動をご紹介します。

チョウを守るってことは、チョウが生きられる環境を守ることだと気付きましたね

● 近江町オオムラサキを守る会

「息子とクワガタムシを捕りに行って、ポロポロになった雌のオオムラサキを見つけたんです」代表の樋口さんが家のそばにあるかぶと山に国チョウ・オオムラサキが生息するのを知ったのは20数年前。「こんな近くの山にこんな驚きがありました」以来、チョウウに関心を持ち生息数が減っていることなどを知りました。昭和57年、かぶと山にドライブウェイの建設計画が持ち上がり「チョウウの住む里山がなくなる」という思いから『守る会』を立ち上げました。

たないんですね。繁殖よりもオオムラサキが住める環境づくりが必要なんだと思いました」

かぶと山のエノキも20年前に比べると3/4に減っています。「みんな便利さに慣れてしまっただけ、昔のよくなりましたね。今は啓発活動に力を入れていきます」

現在会員は約30名。関心を持つ他府県の方も参加しています。年7、8回の観察会、越冬幼虫のカウント調査、樋口さんが作る毎月発行の会報など、国チョウを通して里山の保全を訴えます。オオムラサキが羽化するのは6月から8月。運がよければかぶと山の遊



歩道で青紫の美しい羽根のあるチョウと出会えるかわかりません。「自然を守ることは難しい。人間の暮らし方、生き方を変えないとだめですね」(編集ボランティア 松井由美子)



近江町オオムラサキを守る会

代表：樋口善一郎さん
連絡先：坂田郡近江町多和田1443
電話：0749-54-0440
設立：1982年
会員：30人

●代表の樋口善一郎さん

幼虫のエサとなるのは雑木林に多く自生するエノキです。開発などで雑木林が減少し、オオムラサキも環境庁が希少種に指定するほど少なくなりまし

た。「初めは人工飼育で繁殖を試みましたが、卵も幼虫も自然に帰したら育



●県外からの参加者も多い自然観察会

S P O T L I G H T

自主企画自主運営をモットーに 常に外と交わりながら「開かれた集まり」を



●野洲町の歴史を学び、藍染の様子を見学

「暮らしの中

で抱く疑問や興味関心のあることを自分たちで学習し、生活の中で活かしたい」そんな想いで活動されているのが近江八幡市の『てまりの会』です。自主企画自主運営をモットーに活動を始めて13年。地域づくりや福祉・医療、女性一般・食について等、年10回程度の多彩な活動は参加者のアンケート調査をもとにし、1つの事業で2つ以上の成果を目指して企画されます。

名前の由来はてまりのように「いつも動態でいたい」という想いから。「事業ごとに参加者を募り、参加している人が会員となる。自分の興味関心のあることだけに参加できるようにしたいがここまで続けてこれた理由だと思います。」と運営委員の井上さん。当初から代表を置かず、常時数名の運営委員で話し合っただけで完結できない。常に外と交わっています」という言葉は「開かれた集まり」を感じ

●てまりの会

てまりの会

連絡先：近江八幡市若葉町2-1762-5
(井上方)
電話・FAX：0748-37-2346
設立：1990年
会員：55人



●運営委員の井上さん（左）と脇坂さん（右）

じさせます。

「学んだことを地域におろしていくのも大切なこと」と運営委員の脇坂さんは強調します。自主グループもいくつか誕生し、波及効果も出ています。「縦でも横でもなく、私たちは斜めにつながりたい」と話される井上さん。今後は情報発信のあり方を考え、手書きであることにこだわりのある会報紙『てまりだより』の発行を若干少なくし、直接対話を大切にしていくとのこと。「電子の時代だからこそ顔をあわせて話し合うことを重視したい」と今後の活動に対する意欲が伝わります。
(編集ボランティア 江上淳史)

●デイサービスの風景

(中小路町にある「しみんふくしの家八日市デイサービスセンター」にて)



「高齢になっても障害を持って、住み慣れたわが町、わが家で自分らしく暮らし続けたい。誰でもそう思いますよね」NPO法人「しみんふくしの家八日市」の事務局長、雲川弘子さんが福祉にかかわるきっかけとなったのは、10年前に参加した県の海外研修でした。スウェーデン、ドイツ、フランスの福祉施設を見学し、日本とのあまりの違いにびっくり。当時、日本にはグループホームはなく、「どうすればこんな風につながるに暮らせるのか」と考えこまれたそうです。

「しみんふくしの家八日市」は、そんな思いを実現しようと市民の力を集めて一昨年の12月に設立され、以前から続けていた駅前事業所では保育事業を、そして訪問介護事業とデイサービスを、そして訪問介護事業とデイサービスの場を新しく設け、介護保険に合わせて昨年4月にオープンしました。「地域にしっかりと根を張ることが大切。駅前の場所も今回も会員さんのつながりで見つけることができ、何か助けてほしいときには、必ず誰かが応えてくれる」と、必ず誰かが応えてくれるように

その人らしく生き続けられるように 地域に根を張った活動が大切

●特定非営利活動法人「しみんふくしの家八日市」



●副理事長・事務局長を務める雲川さん

てくれます」と雲川さん。活動を支える会員数は1000名を越し、そのほとんどが八日市市民です。痴呆の人を対象にしたデイサービスは定員10名と小規模で家庭的。スタッフと共に食卓を囲み、おだやかな表情で食事をされて、なごやかなふんい気です。この秋には一番の目的だった、24時間多機能型で、痴呆のある高齢者も障害者も保育の赤ちゃんも共に過ごすグループホームの開設を予定されています。

家庭と同じように誰もが自分の役わりを持ち、みんなが主役でいられる場。日本でも新しい福祉の時代が始まっています。
(編集ボランティア 大山純子)

特定非営利活動法人「しみんふくしの家八日市」

連絡先：八日市市浜野町3-7
電話・FAX：0748-24-0124
代表：小堀猛
会員：105人
設立：1999年6月

第3期運営会議委員決まる!

淡海ネットワークセンターでは、県民の皆さまからのご意見やご意向を反映しながら運営を進めるため、有識者や様々な活動をされている方々による運営会議を設けています。一般公募の委員募集では、多数のご応募をいただきありがとうございました。第3期運営会議の委員は次の皆さんです。

- ◆伊東 真吾さん 滋賀県環境生活協同組合
- ◆遠藤 恵子さん 学習グループすびか
- ◆神崎 浩子さん 北近江浪漫交流圏委員会
- ◆近藤 隆二郎さん
滋賀県立大学環境科学部 助教授
- ◆澤 孝彦さん 高島町役場 職員
- ◆末富 孝也さん
特定非営利活動法人HCCグループ
- ◆辻 純男さん
米原町商工会・淡海フィランスロピエネット
- ◆筒井のり子さん 龍谷大学社会学部 助教授
- ◆樋口 幸永さん びいめ〜る編集スタッフ
- ◆森川 稔さん アーバンスタディ研究所

イベントづくりに参加しませんか

おうみ市民活動屋台村実行委員募集

市民活動やNPOの情報を広く紹介し、市民団体の活性化を図るため「おうみ市民活動屋台村」を9月29・30日にピアザ淡海で開催します。この屋台村と一緒に参画していただける実行委員を募集しています。

募集人員：30名

応募資格：市民活動を実践しているか市民活動に関心があり屋台村に参加できる方

応募期限：5月15日（火）

応募先、問合せはセンターまで

ボイス

NPO、福祉と言っても大津、近江八幡での参加が目立つ。いつも湖北はおいてけぼりの感覚をかくし切れない。立ちおくれなのか、市民に関心がないのか。他市からこの地へ移住した私にとっては、滋賀県の北と南の動きの違いに矛盾を感じる。行政だけが力んでも進まない。また、市民が頑張っても先が見えない。では、どのようにしたら良いのだろうか。この北と南の差異は一体どこにあるのだろうか。（伊吹町の琵琶湖太郎さんから）

2001年度年間スケジュール

淡海ネットワークセンターの今年度の年間スケジュールが決まりました。

3期目を迎えた「未来塾」や「わくわく市民活動ゼミナール」「市民活動屋台村」などの事業を引き続き行うほか、みなさんの意見や提言をいただいて、新しい展開も模索していきたいと考えています。

●未来塾開講式

日時：6月9日（土）午後
場所：アヤハレークサイドホテル

●おうみ市民活動屋台村

日時：9月29日（土）・30日（日）
場所：県民交流センター（ピアザ淡海）

2001	
6	おうみ未来塾開講式(6/9) わくわく市民活動ゼミナール (以降5回随時開催)
7	データファイル更新作業
8	NPOフォーラム(名古屋8/4・5) 地域づくり団体全国研修交流会(8/30・31)
9	淡海ネットワークサロン開催 (以降5回随時開催) おうみ市民活動屋台村(9/29・30)
10	淡海NPOデータファイルの発行
11	県外活動団体との交流会
注) 計画は予定ですので、開催時間などを変更することがあります。	
2002	
1	
2	
3	おうみ市民活動交流会 おうみ未来塾開講式発表会

編集後記

取材時、オオムラサキは落ち葉色した4令の幼虫。まだ2回脱皮してそれからサナギになり美しいチョウになります。手をかけた人工飼育のチョウを山に放しても、自然の中で生きていけるような強い卵は生めない樋口さん。何となく人間と同じような・・・。（編集V 松井）

紹介記事を担当したのは初めてでしたが、インタビューは有意義なものでした。長年活動を支えてきただけあって話を伺った運営委員の方からは会を愛する気持ちがあふれるようで、やさしい表情が忘れられません。（編集V 江上）

福祉関係の取材をする度に、私はどこでどんな老後をするのかと考えてしまいます。ダンボール箱3個の私物しか持ち込めない施設では私はげつたい嫌。自分らしくいづつもありたい。ノーマライゼーションを大切にすることがどんどん増えてほしいと願います。（編集V 大山）

21世紀の初年度、センターが設立され5年目を迎えました。この節目に当たり、センターの支援のあり方を検討するため、3月にアンケート調査を行いました。この調査をもとに今後市民活動・NPOの支援メニューの開発や支援体制の検討などに、取り組んでいきたいと考えています。また、センターの運営に意見を頂いている運営会議も任期満了の第2期委員に交替して、本年度からは新しい第3期委員にご就任頂きました。新委員のご活躍に期待しています。事務局も新しい次長を迎え、気持ちも新たに頑張りたいと考えていますので、引き続き皆様のご支援をお願いします。（事・多田）

これまでにお寄せいただいたご意見を参考に、今月号から少しレイアウトを変えてみました。皆さんからのご意見、ご感想をお待ちしています。

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

- 〒520-0801 大津市におの浜1-1-20
- TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442
- http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net
- E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29～1/3を除く)
火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
・各県事務所、県情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、女性センター、文化産業会館、陶芸の森、草津コミュニティ支援センター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さくらホール、滋賀銀行、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など

